

National Institute of Technology, Tokuyama College

徳山高専だより

2015年度 No.69



作成：情報電子工学科3年 山本勇哉

徳山工業高等専門学校

目次

| | |
|--------------------|----|
| 2015年度の徳山高専 | 1 |
| News&Topics | 2 |
| Look Back 2015 | 4 |
| 国際交流について | 8 |
| 第41回 高専祭を終えて | 10 |
| 高城寮より | 12 |
| 留学生だより | 14 |
| 就職・進学状況／就職・進学試験体験記 | |
| 本科 | 16 |
| 専攻科 | 22 |
| 卒業生だより | 25 |
| 徳山高専同窓会「高城会」より | 28 |
| ホームカミングデー | 28 |
| 退職者挨拶 | 29 |
| 図書館だより | 32 |
| 編集後記 | |

2015年度の徳山高専



12/5 徳山高専産学交流会開催



11/22 全国高専ロボコン2015
「輪花繚乱」出場



11/14~15 全国高専デザコン
構造デザイン部門で2つの優秀賞



11/7~8 パソコン甲子園
「いちまいの絵CG部門」で
佳作に入選



8/14~30 全国高専体育大会
陸上部富田君、
テニス部寺西さん優勝



10/31~11/1 第41回高専祭「4link」開催



8/23、29 周南ロボコン2015
ロボット製作教室を開催



8/6 本校女子学生が
「しゅうなんFM」に出演



7/11 留学生のふるさと展発表会を開催



5/28 女子中学生向けの学校案内
「高専女子百科Jr.」を作成



7/3~5 第51回中国地区高専体育大会



5/1 学年対抗マッチ
総合優勝は3年生



4/23~24 新入生合宿研修 徳地青少年自然の家



4/1 入学おめでとう 本科・専攻科入学式



輪花繚乱（わっかりょうらん）

タイトルの「輪花」とはビニルホースの端と端を繋いで作った“輪っか”のことです。2015年で28回目となる高専ロボコンの競技課題は、太さと高さ（最高3m）の異なる9本のポールに、相手より先に輪っかを投げ入れるというものでした。

高専ロボコンには2つの顔があって、一つは“競技”、もう一つは“ものづくり”です。今回の競技で想定される必勝パターンは、複数のポールに対して定位置から同時に素早く輪を投げ入れる戦法でした。しかし、我々の2チームはあえて“ものづくり”にこだわったため、この戦法はとらず、Aチームは独自の“フォルム”に、Bチームは独自の“投げ方”にこだわった**捲土重来**（写真上 中左下）と**あーちえりん!**（写真上 中右下）を誕生させました。

捲土重来は80%が木製のベニア板で作られていて、リボルバー式装填機構に20本の輪を搭載して、上下に設けた高速回転ローラーで打ち出す仕組みです。あーちえりん!は大小36本の輪を搭載でき、人の腕のような関節を持った投石型発射機構を持っています。

中国地方大会において、捲土重来は優勝候補の一角である松江高専のロボットに一回戦で惜しくも負けてしまいました。あーちえりん!も一回戦で負けてしまいましたが、そのユニークな発射機構に挑戦したことを高く評価されて「**アイデア賞と特別賞**」を受賞しました。一方、捲土重来は賞には漏れたもののロボットの性能が評価されて「**全国大会出場推薦枠**」に選ばれ、2年ぶりに全国大会への出場を果たすことができました。

全国大会では籤運悪く、初戦で最速Vゴールを決められるロボットとの対戦となりました。試合では相手のミスもあってかなり善戦しましたが負けてしまい上位の成績を残せませんでした。しかし、一回戦敗退にもかかわらず表彰式ではロボコン大賞候補8チームに選ばれ、こだわったロボットづくりが評価されて「**特別賞**」を頂きました。

この大会では「執念のものづくり」は嘘をつかないことを改めて学びました。



写真 上 中国地方大会を終えて
中央 中央ポールを狙う瞬間
下 輪っか発射のようす

全国高専デザコン 構造デザイン部門でW優秀賞

平成27年11月14日～15日に和歌山県民文化会館で行われた「デザコン2015 in 紀の国わかやま」の構造デザイン部門で、土木建築工学科5年 丸山直也君、3年 加納萌里さん、2年 佐々木日菜さん、田辺萌絵さん、1年 貞本侑香里さん、中村智哉君の作品『織月（せんげつ）』および土木建築工学科5年 小山諒子さん、志賀菜帆さん、2年 川崎泰奈さん、寺西冴映さん、徳重茜さん、1年 山本真奈美さんの作品『美環（みかん）』が、全55作品の中から優秀賞（2位と3位）を受賞しました。構造デザイン部門でのW受賞は、本校初の快挙です。

今大会は、直径0.7～2mmの銅線をハンダ接合して組み立てたスパン90cmのメタルブリッジに60kgまでの荷重を載荷し、その軽さ、強さ、美しさ、プレゼンが総合的に評価されました。

「織月」は、構造計算に基づいた様々な太さの銅線を組み合わせた変断面トラスボックスによるアーチ構造で、40作品以上の試作を重ねて構造の合理化を追求しました。一方、「美環」は、女性らしさが詰まったブレースドアーチ構造です。直径1.2mm以下の銅線のみ使うという「細さ」へのこだわりと、「人と人が繋がり、交わる美しさ」を構造的に表現し、今大会のメインテーマ「ささえる」に応えました。

今回は、メンバー12人のうち女子が10名、1～3年生が9名と、低学年&女子の活躍が目立ちました。デザコン＝高学年中心、構造＝難しい&ハードという従来のイメージを覆すチーム編成でのW受賞に、会場でも多くの注目を集めました。



パソコン甲子園で佳作に入選

パソコン甲子園とは、高校生と高等専門学校生（3年生まで）が、情報処理技術におけるアイデアや表現力等を競い合い、その経験を通して知識と技術を高めるICT分野の全国大会です。パソコン甲子園には、制限時間内に問題に対する解答プログラムを提出し、正解した問題の合計得点を競う「プログラミング部門」、テーマに基づいた“夢のある”アプリを企画・開発し、その総合的なプロデュース力を競い合う「モバイル部門」、テーマに基づき制作された1枚のCGの作品を総合的に審査する「いちまい絵CG部門」の3部門があります。今年の第13回大会は、平成27年11月7日～8日に会津大学で行われました。

今年のパソコン甲子園のいちまい絵CG部門で情報電子工学科3年の山本勇哉君の作品「夕暮れ坂」が佳作に入選しました。この作品は山本君が人を取り巻く環境をイメージして描いた作品です。今年のいちまい絵CG部門のテーマは「環境」で、「独創性」「インパクト」「技術力」「テーマを生かし切れているか」の4項目に重点を置き、表現力や芸術性等を総合的に審査されます。今回、全国から631作品の応募があり、佳作以上に入選した作品は19作品でした。山本君の作品はパソコン甲子園2015のホームページに掲載されています。

山本君は徳山高専ニューメディア部のメンバーです。ニューメディア部ではCG作成ツールの講習会を行っており、より良い作品が作れるように日々技術を磨いています。

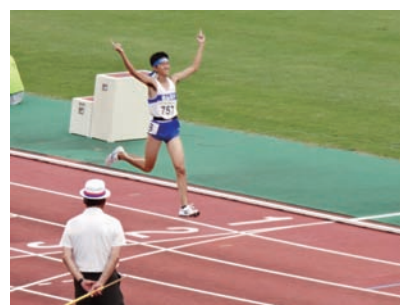
（■今回の高専だより表紙は、受賞作品をもとに、『徳山高専坂バージョン』を山本勇哉君が作成しました。）



第50回全国高等専門学校体育大会 陸上部富田君、テニス部寺西さんが優勝

平成27年8月14日～30日に九州沖縄地区で第50回全国高等専門学校体育大会が開催されました。本校からは、7月2日～4日に行われた中国地区大会を勝ち抜いた選手が、団体戦に8種目、個人では8種目に30人が出場しました。選手はそれぞれの競技で練習の成果を発揮し、白熱した戦いを繰り広げました。その結果、陸上競技男子1500m及び男子5000mでは富田就斗君（機械電気工学科4年）が優勝、テニス競技女子シングルスでは寺西冴映さん（土木建築工学科2年）が優勝しました。その後、富田君と寺西さんは9月25日に木村周南市長を表敬訪問し、全国優勝を報告。10月26日には山口県メダル栄光授与式に出席し、村岡知事からメダルを授与されました。

また、平成27年10月16日～18日に徳島県鳴門総合運動公園陸上競技場で行われた第38回中国四国学生陸上競技選手権大会においては、富田君が男子3000mSC、男子1500m、男子5000mの三種目において三冠を達成しました。3種目とも自己記録を大幅に更新し、男子3000mSCの記録は全国高専記録を更新する快挙でした。



機械電気工学科より

私は、9月7日から9月11日までの5日間、株式会社日立ハイテクノロジーズの生産技術課へインターンシップに行ってきました。

実習内容は集積回路の製作機械を作る工場のクリーン度（1立方フィートあたりの空気中のごみの数）を測定し傾向をつかむことで、原因と対策を考えることでした。

この度、会社という組織に初めて入らせていただき、感じたことはたくさんありますが、特に印象に残っているのは、「一人ひとりの責任の重さ」です。それぞれの人に、個々の責任、部署の一員としての責任、会社の一員としての責任があり、それらがすべて果たされて、はじめて一つの製品ができていくことを目の当たりにし、もし今の自分が社会にでたら、未熟なところが多々あることを強く実感しました。

将来職に就き、社会に貢献する立場となったとき恥ずかしくない自分であるために、今から心がけて生活しようと思います。

機械電気工学科 2年 河野 朋基



4年生は9月14日から9月16日に東京・横浜へ研修旅行に行ってきました。日産、ラーメン博物館、横浜中華街、

昭和電工、スカイツリーなどたくさん行ってきました。日産の工場では実際の職場、最先端の技術を見ることができ、これから始まる就職活動に役立つものとなりました。ラーメン好きの私としてはラーメン博物館に行けてとても嬉しかったです。スカイツリーは実際に見るととても高く、どうやったらこんな建てるんだと驚嘆したのを鮮明に覚えています。3日目に現地解散をして、友達と東京を約1週間観光しました。ショッピング、東京ディズニーリゾートなど東京を堪能し尽くしました。この修学旅行は私の学生時代の思い出に刻まれる貴重なものとなりました。高専生活残り1年、まだまだたくさんの思い出を作っていこうと思います。

機械電気工学科 4年 宮下 陸雄

3年生は9月14日に広島のカルビー、オタフクソース、マツダミュージアムへ工場見学に行きました。工場で活躍するロボットに皆興味津々でした。オタフクソースでは大きな鉄板を使って広島風お好み焼きを作り、全員で美味しくいただきました。



機械電気工学科 3年担任 福田 明



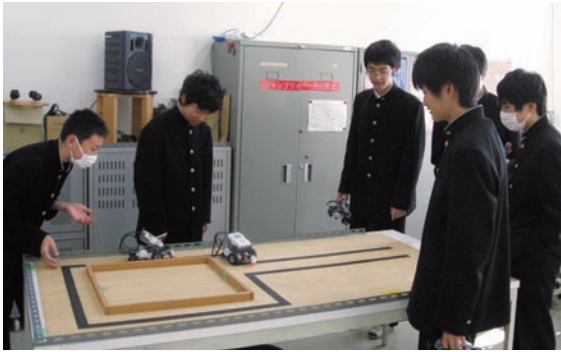
私は、12月22日に中国の江蘇大学で開催された創造的工学設計コンテスト (Creative Engineering Design Competition) に参加しました。

英語でのプレゼンテーションやデモンストレーション等、不慣れな点もありましたが、早めに準備をして綿密な練習をした成果もあり、私が設計・製作した「重量測定機能付キャリーバック (Trolley case with weight scale)」が銅賞を受賞しました。

機械制御専攻 1年 西村 礼貴

今年の情報電子工学科

●4月5日、入学式が行われ、1年生44名が入学しました。夏休みが終わった頃から、高専生らしくなってきました。



●混合学級から専門別クラスになった2年生が、宿泊研修で親交を深めました。5月8日～9日、山口県ふれあいパークで、野外炊飯や陶芸を体験しました。



●夏休み期間中に23名の4年生が企業の実施するインターンシップへ参加しました。参加した企業は次のとおりです。

エヌ・ティ・ティ エムイー、中国電力、ディスコ、マツダE&T、チームラボ、DMM.COM ラボ、マイスターエンジニアリング、ステラリンク、三菱化学、富士通エフサス、テクノプロ、大阪ガス、鹿島クレス、アズテックス、富士通九州システムズ、JXエンジニアリング

●これからの就職・進学活動に備えて、9月14日～16日、4年生が工場見学へ行きました。初日は羽田のANA 機体メンテナンスセンターを見学しました。2日目は横浜で海洋開発機構横浜研究所の地球シミュレータを見学しました。ここではスパコンで地球環境の計測や将来の予測が行われています。また、日産自動車横浜工場では、ロボット化されている生産ラインを見学しました。



●補講週間中の9月16日・17日に情報処理技術者試験の受験対策講座を実施し、多くの学生が熱心に勉強しました。ITエンジニアの登竜門である基本情報技術者試験の27年度の取得状況は以下のとおりです。

| 学年 | 取得者数 | 学生数 | 取得率 |
|----|------|-----|-----|
| 2年 | 2 | 39 | 5% |
| 3年 | 6 | 40 | 15% |
| 4年 | 23 | 41 | 56% |
| 5年 | 19 | 40 | 48% |

(応用情報技術者試験以上だけを取得している者も含む)

●10月11日・12日に長野で開催された全国高専プログラミングコンテストで、ニューメディア部の作成した「Pianist—鍵盤楽器運指練習システム」が敢闘賞を受賞しました。



2015年度の土木建築工学科

土木建築工学科 目山 直樹

【1年生】新しい気持ちで

2015年4月。難関をくぐり抜けてきた中学生たちが新1年生として徳山高専に入学してきました。土木建築工学科にも41名の仲間が新たに加えられました。1年生たちは、年4回の定期試験、実験や製図課題など多くの提出物、高度な基礎科目と、幅広い専門科目に戸惑いながら、この1年を過ごしてきました。もうそろそろ慣れてきたころです。いまや、2年生になる準備をはじめている段階です。



1年生の授業風景（工学デザイン基礎I）

【2年生】上級生になって

学習内容もだんだん高度化するとともに、専門科目も増えてきます。土木建築工学科では2年生で現場見学に行きます。今年は広島市を訪ね、美術館のバックヤードツアーに参加するとともに、広島駅前の再開発ビルの建設現場を見学しました。

また、今年のクラスはユニークでした。高専祭でのクラスの出し物が「映画」。映画製作を通じてクラス内のつながりが深まったことでしょう。

【3年生】高専生活の折り返し点

専門科目と一般科目が半々くらいになります。3年生は4日間の集中測量実習に参加し、初めて訪れる現場で高低差をとり、トラバースをくみ、平板測量で地図へと仕上げていきます。クラスが2チームに分かれてゼロからのものづくりだすことを経験します。合宿して同じ釜の飯を食べた者同士、高専生活の思い出になりました。

また、高専には3年生に外国人留学生を受け入れる仕組みがあります。今年は、サロールさん（モンゴル）、トラー君（カンボジア）の2名がクラスに加わり、国際色も豊かになりました。

【4年生】土木・建築のそれぞれコースに分かれて

4年生になると、土木コースと建築コースに分かれ、それぞれの専門性に応じた授業を受けるようになります。ただ、わが校では、希望者の一級建築士受験資格を確保するため、土木系であっても建築系科目（建築士受験要件）が選択できるように工夫されています。また、4年生では研修旅行があり、9月に10日間ほどフランスを旅行し、パリの建築物やフランスの構造物などを実際に目にふれ、空間として体験することができました。

わが校は高校卒業生を4年次に編入学生として受け入れています。今年は徳山商工高校から1名の編入生が4年生に加わりました。

4年生は、夏休み期間中に1週間か2週間の校外実習（インターンシップ）を履修することができます。近年の傾向として、4年生のほぼ全員が校外実習に行き、自分の将来の進路と向き合う機会としているようです。受け入れ側の企業や官公庁のみならずのおかげで、充実した職業体験ができたようです。



4年生の研修旅行（パリのノートルダム寺院前）

【5年生】それぞれのみちに向かって

5年生では、これまでの学びの集大成でもある卒業研究に取り組みます。構造工学、材料（コンクリートなど）、地盤工学、水理学、建築計画、建築史、建築環境工学、都市計画などの各分野を専門とする指導教員について、一人ひとりが個別のテーマで実験したり、観測したりしながら研究活動をしていきます。なお、昨年度の卒業生の中で、専攻科に進んだもののうち2名が、卒業研究をさらに進めた研究成果で、学会で表彰を受けています。

現在の高専は、卒業後の進路として就職も、進学も充実しています。学生の多くは、4年次に概ねの進路選択を行い、5年生になれば、就職活動や大学等への編入学試験に臨むことになります。今年の5年生も、じっくりと準備をして、それぞれが希望のみちに進みます。

一般科目

一般科目 大橋 正夫

ここでは、一般科目の教員が深く関わっている行事について、3件報告します。

【1年生】新入生合宿研修

毎年、国立山口徳地青少年自然の家で、一泊二日の日程で行われています。今年度は、4月23日、24日に、新1年生126名が参加しました。クラス担任の一般科目教員3名と4、5年生の指導学生も参加し、校歌コンクールや徳地アドベンチャープログラムの活動などを通じて、学科やクラスの枠にとらわれずに大いに親睦を深めました。



【全学年】ACE、TOEIC 一斉試験の実施

12月24日に英語の一斉試験が実施されました。1～3年生は英語運用能力テストACEを、4、5年生と専攻科1、2年生はTOEICテストを受験しました。年末最後の登校日となったこの日は、午前中すべての時間を試験に使い、その後下校しました。ここ数年は毎年継続的にスコアが上昇しています。英語科で各学年ごとに、達成目標となるスコアが決められていて、ACEではいずれの学年も60%以上の学生が到達しています。TOEICの平均点も毎年上昇していますが、目標達成率には学科ごとにばらつきがあります。結果は来年度に報告されます。

【3年生】学習到達度試験

平成28年1月14日に全3年生を対象とした、「数学」および「物理」の学習到達度試験が行われました。これは、平成18年度から全国高専において、統一問題を用いて行われているものです。試験時間は各科目90分で、午前中の授業時間に行われました。各個人の得点は数学や物理の成績の一部となるので、全員が真剣に取り組みました。数学と物理の教員による特別補講や模試、試験説明会など、試験対策も行われました。この結果も来年度に報告されます。

専攻科

専攻科長 西村 太志

高等専門学校に専攻科が設置され、2年の修業年限を経て、学士の学位が授与されるようになり、徳山高専でも定員（各専攻4名×3、12名）を上回る志願者が毎年のように入学しています。

平成27年度は機械制御工学4名、情報電子工学8名、環境建設工学7名の19名が専攻科に進学しました。

【インターンシップ】

専攻科のカリキュラムの特徴のひとつに、1年次に実施する2ヶ月から3ヶ月のインターンシップがあります。企業や官公庁で実務に関わらせていただくものもありますが、近年は大学の研究室でインターンシップを受け入れていただく機会も増え、多様な形態でインターンシップが行われています。9月17日にインターンシップ報告会が行われ、6名の学生が口頭発表し、すべての学生の報告パネルが展示されました。



インターンシップ報告会

【専攻科生研究交流会】

中国・四国地区では、毎年持ち回りで専攻科生の研究交流会を行っています。今年は徳山高専を会場に13高専の専攻科生が集まりました。この会は専攻科生自身による実行委員会により運営されるもので、4月25日～26日の2日間にわたり、口頭発表、ポスター発表、情報交換会などの活発な交流が行われました。



中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会

国際交流について

現在、徳山高専においては、海外の教育機関との国際交流を促進するための取り組みに力を入れています。

いまなぜ国際交流が重要なのでしょうか？ その目的は、国際感覚の涵養です。いわゆるグローバル化の時代を迎え、多面的、多角的な物事の見方や考え方を身につけることが、未来の技術者として、本校の学生たちが世界で活躍するために絶対に必要な能力と考えます。

特に本校においては、日本学生支援機構（JASSO）の支援制度による香港IVE（Hong Kong Institute of Vocational Education）、オーストラリア・ワランゴン大学（University of Wollongong）などの海外の高等教育機関との交流活動を推進しています。また、学生や教員の海外交流の促進から教育のグローバル化に繋げる為、積極的に海外語学研修や、「トビタテ! 留学JAPAN」などのプログラムを活用した海外留学、専攻科生の「長期海外インターンシップ」の推進をはかっています。

平成27年度は4月1日に香港IVEからの8名の短期研修生および3名の長期研修生が来校しました。

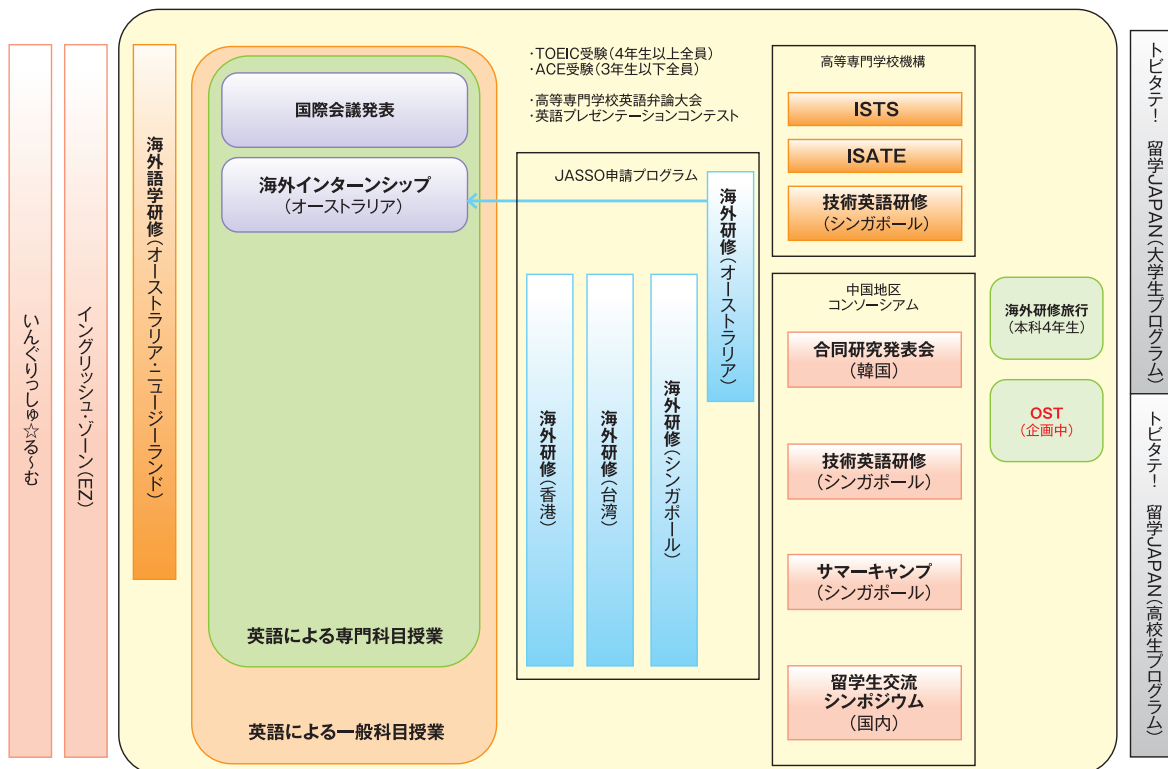
短期滞在の学生8名は、本校教員の指導によるワークショップや工場見学などを通じて、一週間にわたり本校学生との交流を行いました。

長期研修の学生3名は、それぞれ機械電気工学科の研究室に配属され、最終学年におけるプロジェクト研究（卒業研究）を本校教員の指導のもとで実施し、6月15日に研究成果をまとめ発表しました。また、地域イベントへの参加や工場見学、研修を通じて地域交流を深めました。



香港IVE短期・長期研修生

グローバル人材育成に関連する教育活動



本校におけるグローバル人材育成プログラム

8月23日(日)～30日(日)には香港IVEと国立高専機構の交流活動の一環として、本校の学生4名が長野高専の学生たちとともに、香港へ海外研修に出かけました。香港IVEの学生達と、工場見学会、博物館を巡る観光ツアーなどに参加し、香港ではIVE学内見学会やドラゴンボートの模型製作教室、英語のワークショップなどのプログラムで勉強しました。このプログラムで工業技術や英語を学んだだけでなく、香港の学生達との新たな友情や他の高専との交流を深め、よりグローバルな視点を涵養することができました。



海外研修

8月27日から9月12日にかけてシンガポール・ポリテクニクにおける「サマーキャンプ in Singapore」に、本校の学生1名が参加しました。集中的な語学研修により英語力が向上するとともに、海外での生活体験や、多民族国家であるシンガポールの学生たちとの異文化交流を通じ、グローバルな視点を涵養する良い機会となりました。

10月3日から5日には、中国地区の8つの高専の合同事業として「留学生交流シンポジウム」が広島県の江田島青少年交流の家で開催され、本校から留学生を含む8名の学生が参加しました。留学生の母国紹介、サイクリングなどのアクティビティー、JICAの出前講座を利用したワークショップを通じ、学生たちが国際交流の重要性に目覚める良い機会となりました。



サマーキャンプ in Singapore



留学生交流シンポジウム

11月13日(金)には、国際協力機構(JICA)の青年研修事業としてフィリピン政府行政官18名が来校しました。本校の教育システムに関する説明を受けたのち、研修・実験設備、学生寮、授業などを見学し、本校教員との自由討論では活発な意見交換が行われ、お互いにとって有意義な研修となりました。

平成28年度には、これまで同様のプログラムとともに、新たにシンガポール・ポリテクニクと台湾の正修科学技術大学との学生交流プログラムの開始を予定しています。

グローバル化が進むに伴い、経済、金融、その他様々な分野におけるコミュニケーションツールとして英語を使いこなす力が求められています。しかしながらグローバル化とは、英語力のことだけではありません。それは「多様な文化的背景を持った人々を理解し、コミュニケーションを通じて影響を及ぼす力」です。グローバル化の流れの中で、遅れをとらないよう、様々なプログラムを準備していますので、学生たちの積極的な参加を期待します。

第41回 高専祭を終えて



学生会長 隅田太一

私たち学生会役員は、昨年創立40周年という大きな節目を終えた今年、第41回目という新たな出発点となる今年度の高専祭「4link」を盛大に開催させるため、実に約一年という月日をかけて様々な企画の立案・計画を行ってきました。これまでの良き伝統を引き継ぎ、さらに良いものを作ろうと、多くのプレッシャーもありましたが、おかげ様で無事、大成功を収めることができました。

これもひとえに、皆様のご支援とご協力の賜物であると感謝にたえません。

今年の徳山高専学生会はボランティア活動に力を入れており、例えば敬老会の実行委員会に参加させていただくなど、このような経験からもアイデアを十二分に取り入れさせていただきました。その甲斐もあり、今年度の高専祭はこれまでよりも新しいことを存分に取り入れ、様々な方々を対象に楽しめる企画を行う事が出来たかと思えます。

来年度はさらに、今年度を超える山口県一のお祭りとなるよう、精一杯頑張りますので、これからも徳山高専を宜しくお願い致します。

高専祭実行委員長 中村 航

今年度の高専祭テーマ「4link」は、地域、企業、教職員、学生が共につながりあって最高の高専祭を作り上げることを目標にしました。

今年の高専祭は10年ぶりの晴天にも恵まれ、本当に素晴らしいものになっ

たと思います。

17歳から19歳という大人と子供どっちつかずの僕たち実行委員にとって、高専祭は自由に企画できる反面、学生だけで考え、作り上げる必要があるため、自立心を育む時間でもあったと思います。僕たちだけでは足りない部分をサポートしてくださった学生主事をはじめとする教職員の皆様には本当にご迷惑をおかけしました。お世話になりました。

僕たちが先輩方から伝統を引き継いだように、後輩たちにも高専祭という良きイベントを引き継いでいてもらいたいです。2日間、ありがとうございます。

スポンサー部署長 藤村聖那

スポンサー部署では、高専祭スポンサー活動の運営やお金の管理を行っています。

今年はより多くの企業の方々にご協力いただき、昨年よりもたくさんの新しい企画に挑戦することができました。応援して下さいました。感謝し、謹んでお礼申し上げます。

メイン部署長 福田大輝

今年度のメイン企画「Reink」は高専祭初日からたくさんの来場者の皆さんに足を運んでいただき大盛況に終わりました。今年は徳山高専三学科の技術を総結集した作品を目指して活動を行いました。やることなすことが初めてのことで、多くの教職員にご迷惑をおかけし、また多くの実行委員の仲間達に力を借りました。そして、作品自体が来場者数に応じて変化す

るものだったので、たくさんの方々と一緒に「Reink」は完成したと思います。本当に感謝しています。

僕個人としては部署長としては1年間、メイン部署としては2年間活動し、様々なことを体験して2年前よりはるかに成長できました。このような体験をすることができて、僕は本当にラッキーだったと思います。来年度のメイン部署のみんなも、こういった体験ができることをラッキーだと思って、楽しんで活動して欲しいと思います。そして、来年の高専祭でより素晴らしいメイン企画の作品が見られることを期待しています。



ステージ部署長 末廣大貴

ステージ部署の仕事内容は主に当日のステージ企画の運営、進行です。また、その他には各企画の準備、ステージ後方を彩る絵の作成があります。

当日直前まで細かいことが決まらず、焦りと不安を抱えたまま高専祭当日を迎えました。しかしながら、メンバーの本番の強さと、かげながらの努力のおかげで、無事楽しい企画を二日間やり通すことができました。メンバー全

員がプレッシャーと戦い続ける二日間でしたが、終わった後にはたくさんの人に”今年も楽しかった”と言ってもらうことができ、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

演出部署長 清水 大

私たち演出部署はライブとファッションショーを担当しています。見に来てくださったお客様に感動を届けられるように部署員と話し合い目標に向かって活動しています。また、演出部署はアツと驚かせる発想力と最後まで目標を変えずに努力する精神力が必要です。そのためには最後まで信頼し合える関係が必要だと思います。信頼関係があればどんな苦難にも諦めずに頑張れます。”みんな仲良く”の精神を持って、次の部署長にも頑張ってもらいたいです。

広報部署長 岩崎彩寧

皆さん、今年のパンフレット、いかがでしたか？

今年は、広報部署5人のたくさんのこだわりを1冊に詰め込みました。表紙を中心に、AR動画など新しいものをたくさん取り入れ、挑戦し、今までにないパンフレットを作ることができたと思います。



多くの方々に手にとりいただき、また、たくさんのお褒めの言葉をいただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。パンフレットを作成する上で、多くの方々にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私自身、今年は部署長という立場を経験し、初めはたくさんの人に心配されていましたが、無事高専祭を終えることができ、色々な面で成長することが出来ました。思い出に残る最高の

高専祭になりました。本当にありがとうございました。

会場部署長 寄岡祐太郎

この度は、部署長という立場で高専祭に関わらせていただきましたが、無事に成功して一安心です。

僕たち会場部署は当日の交通整備と前日企画を担当させていただきました。今年は前日企画が例年よりも多く大変でしたが、皆さんに楽しんでいただくことができ、とても嬉しかったです。素晴らしい仲間たちと共に高専祭を作り上げたことを僕は誇りに思います。交通整備をしている時も、多くの方々が高専祭にご来場くださっていることをじかに感じ、とても嬉しかったです。

皆様、高専祭を楽しんでくださり本当にありがとうございました。

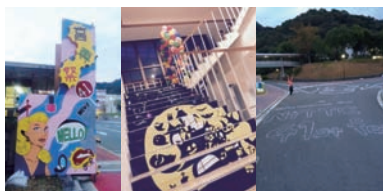
案内部署長 村上佳菜

案内部署の主な仕事は、校舎の飾りつけと当日に案内所を設置することです。

今年は、アスファルトに絵を描いたり、階段に風船のアーチを作ったりと新しいことに多く挑戦してみました。

最初は、本当にできるかととても不安でしたが、優秀な案内部署のメンバーと他の部署の方々の協力のもと無事に完成させることができました。ありがとうございました。

来年も今年以上の装飾をしてくれると思いますので、みなさん、ぜひ見てみてください。



物品バザー部署長 網干勇貴

今年は、私が今まで3年間学生会活動をしてきて一番苦労した年でした。初めは部署長になって部署員を引っ張ることに対してとても不安でした。また、たくさんの人にご迷惑をかけ、私が全

てにおいて自分が悪いと責任を背負い込み、悩んでいたこともありましたが、毎日一緒に作業していく中で助けられた場面が何度もあり、感謝することもたくさんありました。相手のことを信頼して仕事をすることができ、最後までやり切ることが出来ました。

こんな私を支えてくださった学生課、教職員、学生会OBの方々、学生会の皆さん、本当にありがとうございました。

周南ロボコン部署長 秀毛晴也

周南ロボコン部署は、高専祭当日に行われる周南ロボコンの大会に関する全ての事に携わっている部署です。競技案の考案、フィールドの作成、HPの作成、製作教室などを行っています。

例年以上に、今年の周南ロボコンもとても盛り上がり、大成功だったと思います。大変な分、得られる達成感はとても大きなもので自分の仕事にとっても満足しています。ありがとうございました。

美化部署長 田坂 優

今年度の高専祭では、美化部署はカウントダウンの看板の作成、ゴミ箱の装飾、豚汁の販売、献血の呼び込みと盛り沢山の仕事内容でしたが、みんなで協力して、無事高専祭を終えることができました。

部署のみんな、手伝ってくれたみんなには本当に感謝しきれません。そして、看板やゴミ箱を見てくださった皆さん、献血にご協力くださった皆さん、豚汁を買ってくださった皆さん、高専祭に来てくださった皆さん、本当にありがとうございました。



高城寮より

「迅速果敢」

高城寮の一年 (平成27年度)を振り返って

寮務主事 橋本 堅一

平成26年度より寮務主事を担当しております橋本(土木建築工学科)です。高城寮では、現在男子89名、女子20名の総勢109名が寮生活を送っています。(H28.1.15現在)

標題の「迅速果敢」は今年度の寮生会のテーマ(目標)です。4月9日に行われた寮生総会において、清水大寮生会長は、「寮生会で決めたことは何事であれ、即座に行動に移し、早い時期に成果を挙げていこう。」と、テーマの意味を紹介しました。このテーマの下、寮生会は今年度1年いろいろな活動、取組みをしてくれました。

焼き芋パーティーは2回目で、希望者を募って12月6日に行いました。参加者は30名を超えて、大いに盛り上がりました(写真1)。



写真1 焼き芋パーティー

12月20日には寮祭の位置付けでクリスマス会が行われましたが、開催に向けて、高城寮の玄関のライトアップが昨年より豪華になりました(写真2)。

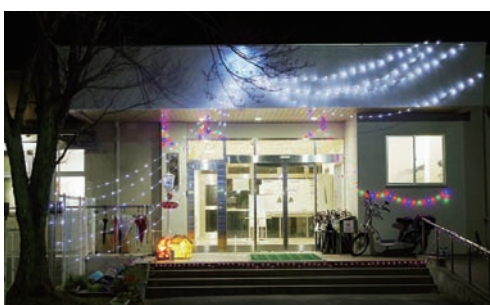


写真2 学寮玄関の豪華になったライトアップ

昨年度の電気使用量も一昨年度と比べ、減少しているとの報告を受けました。この3年間は前年度に比べて減少しており、節電をかたちにしてきているのは、寮生が日頃から寮内の環境整備ともに省エネに積極的に取り組んできた成果だといえます。寮生会の取り組みに感謝したいと思います。

今年度1年も、いろいろな場面で寮生と関わりましたが、「色々なことによく頑張ってくれている」というのが率直な感

想です。もちろん問題は全くないわけではありません。しかし、寮生会を中心に今年度の寮生会のテーマ「迅速果敢」に、様々な問題を解決し、自分たちの寮を少しでも良くしようとしている姿には感謝の気持ちさえ芽生えます。

以下、寮生会を中心に寮生が取り組んだ今年度の主な行事について記します。

入寮式【平成27年4月5日(日)】

今年度は一年生26名、留学生2名の計28名の新入寮生を迎えました。保護者、寮務担当教職員、寮生会役員に見守られて、内務部長の末廣君の進行で入寮式が始まりました。入寮生を代表して芳岡優衣さんが宣誓し、和やか雰囲気での式典が行われました。式典の進行は、楽しく心豊かな今後の寮生活を示唆しているかのように、寮生会役員の巧みな運営でスムーズに行われました。



平成27年度 新入寮生と寮務教員

新入寮生歓迎マッチ【平成27年4月18日(土)】

今年はサッカー、バレーボールと綱引きで競いました。体育部長の網干君の企画の下、寮生が協力して運営を行いました。競技の後は屋外でバーベキューを楽しみました。今年は7名というこれまでにない1年生の女子学生の新入寮があり、女子寮生が多くなったことあってか、男子寮生の楽しそうに談笑している姿が印象に残りました。



新入寮生歓迎マッチ後のバーベキューの様子

勉強会(各定期試験前)

指導寮生長の長尾君、学生相談員を中心に、各定期試験の3週間前から1週間前にかけて恒例の勉強会を実施しました。寮の食堂で20:00~21:30まで、低学年を中心に多くの寮生が参加し、集中して勉強を頑張りました。今年はほとんどの実施日に50人を超える参加者がありました。その成果は結果に反映されているようです。

寮生マッチ【平成27年6月13日(土)、11月14日(土)】

新入生歓迎マッチとは種目を変えて、前期にはバスケットボール、フットサルで行い、後期は雨天でグラウンドが使えなかったため、室内でバスケットボール、フリスビードッチ、長縄跳び、騎馬戦で行いました。女子寮生が得点すると通常より多く加点される特別ルールも採用され、女子寮生の活躍が重視されるゲームでした。女子寮生に得点させるために数々のアイデアが実行されました。



後期寮生マッチでの騎馬戦

予餞会【平成28年1月8日(土)】

間もなく卒業する5年生を送り出すための予餞会が開催されました。今年も準備から企画運営まで、五十嵐副寮長と新企画部長の上原君を中心に計画的に、多くの寮生が協力して頑張ってくれました。お笑いライブ、ゲームなど盛りだくさんの内容で、とてもいい雰囲気の中、最高に盛り上がり、感動あり、涙ありの素晴らしい予餞会でした。



お笑いライブに興じる5年生

七夕会【平成27年7月9日(木)】

今年度も男子寮をホラーハウスに化して肝試しを行いました。女子1名に男子が数名のグループで示されたコースを進んでゆくのですが、人によっては非常に怖い、そして全員には楽しい企画でした。4年続けての好評な企画で、終わってからも楽しい談笑が続きました。



七夕会を盛り上げたお化けの面々



プレゼントの紹介

番外編-クラブ対抗駅伝-

数年前には「長州ファイブ」に準えて「高城ファイブ」というネーミングで参加していたクラブ対抗駅伝ですが、最近では「ドミトリーズ」の名前が定着しているようです。今年は、1区2位で好発進し、2区で先頭に立つと最終区の6区までトップを譲らない展開となりましたが、競技場のあと1周で硬式野球部に抜かれて、2位でゴールしました。しかし、寮生全員に感動を与えたレースとなりました。



ドミトリーズのメンバー

寮祭【平成27年12月20日(日)】

2回目のクリスマス会形式としての寮祭が行われました。ケーキコンテスト、ビンゴゲーム、プレゼント交換が行われ、1時間30分という短い時間でしたが、ほぼ全員の参加で、楽しいひと時を過ごしました。



クリスマス会で飾られたケーキ

この一年間を振り返るとあっという間の一年間でした。高城寮が益々発展するよう、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

★留学生研修旅行 (平成27年5月9日～10日)

今年も恒例の留学生研修旅行で四国へ行きました。

今年度は新たに2名の留学生を迎え、留学生8名、チューター8名、教職員7名、総勢23名で賑やかなバス旅行になりました。柳井港からフェリーを利用し四国・松山へ。留学生は初めてのフェリーに乗船し感動していました。松山で昼食、その後高松市へ移動し日本庭園の特別名勝に指定されている栗林公園を散策しホテルへ。ホテルではオリエンテーションの後、夕食のバイキングを腹いっぱい頂きました。

二日目は金刀比羅宮に参拝。奥社までは1,368段の石段を登りきる留学生も！

昼食はうどん打ち体験！もちろん留学生は初体験です。悪戦苦闘しながらも自分で作ったうどんを美味しく食べていました。



★留学生のふるさと展 (平成27年7月11日)

今回で12回目を迎えるこのイベントは、留学生と周南地域市民の方々との交流を図るイベントです。4ヶ国留学生が、母国の歴史や文化などをプレゼンテーションで紹介しました。留学生と市民の方の親睦が深まる有意義な会となりました。

★第22回留学生のつどい開催 (平成28年1月16日)

大寒を間近に控え、今年は暖冬の中、第22回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、留学生が日頃からお世話になっているの方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に、親睦を図るための毎年恒例のイベントとなっており、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

石田校長の挨拶に始まり、本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノ・アカデミア」の勝井会長の乾杯のご挨拶や、昨年卒業したイヤーさんから心のこもったメッセージもいただき和やかなつどいとなりました。

また、留学生が自ら作成したスライドショーやビンゴ大会なども行われ、趣向を凝らした演出で笑顔の絶えない温かいひと時となりました。



卒業する留学生へ

3年間の徳山高専

土木建築工学科 メイン パルコン
MENG PHALKONG (カンボジア)



高専にきて3年間近くなりましたが、振り返って見るといろいろなことを学んできました。勉強はもちろん、部活やスポーツなどを頑張って努力も体力も成長しました。最初の頃は学年一人の留学生で、また日本語が不十分な私は、授業や生活において大変苦労してきました。しかし、段々友達ができて先輩の経験談も聞いて先生と相談しながら、やっと慣れてきて楽しい生活を送ることができました。学校は色んなイベントがあり、旅行や交流会などの機会です晴らしい人との出会いがたくさんありました。

徳山高専に来た時には、3年間という時間は長いと思っていましたが、今となっては光陰矢の如しでした。徳山高専を卒業した誇りを持って、これから歩む道においても精一杯頑張っていきたいと思います。

チューターになって

チューター 土木建築工学科
津野 翼



コン君は私たちが3年になったとき、編入してきました。私は桑嶋先生らからチューターをやってみないかと誘われてなりました。

学校初日、彼との対面です。すごく緊張していて、同時にどんな留学生なのかイメージで頭の中がいっぱいでした。はじめはお互いに人見知りで、2人とも敬語でぎこちなく話しながら寮に帰りました。今では学校行事や留学生行事を通して、私やクラスのみんなにとって気のいい仲間になっています。

彼と出会って変わったことは、物事への視野だと思います。国外の文化に対して興味がわき、海外を経験するきっかけになりました。また、相手の立場になって要求の本質は何か考えられるようになったのも彼との出会いからです。だから彼は私を変えてくれた人のひとりです。

残り3か月程度でそれぞれ別の進学先へ進みます。離れ離れになることはつらいですが、彼が立派になり、その力を母国にて発揮してくれることを願いつつ、彼の母国で会える日を楽しみにしています。

後輩諸君へ

「貴重にしたい3年間」

土木建築工学科 第33期卒
千葉大学・工学部・都市環境システム工学科
バオオドルジ ドルジハンド
(モンゴル)



私は徳山高専の土木建築工学科を卒業し、千葉大に進学しました。日本に来て以来あつと言う間に丸5年間も経ちました。ここまでの5年間では、日本語学校を始めとする高専や大学と言った日本の色々な教育カリキュラムを体験してきました。振り返ってみると、自分の成長を感じることができ、また一生印象に残るたくさんの思い出ができたのは高専での3年間でした。今も高専の授業や学習シート、試験期間などを時々思い出しますが、その当時は大変でしたが、非常に有効であったことを改めて実感しています。寮生活や先生方、同級生たち、お母さんなどは今も懐かしく思い出される私の人生の中で貴重な3年間です。将来は高専の皆さんに誇れる人になり、是非、皆さんと再会したいと考えております。人間というのは、その場に一緒にいると気づかないけれど離れてから初めて貴重だったものに気づきます。私もその人間の1人で、高専にいった当時は皆さんに感謝の気持ちをよく伝えてないことを今さらながら後悔しています。これからも、日本でも、そして帰国してからも徳山高専の卒業生であることを誇りに思い、精一杯頑張っていきたいと思います。



留学生研修旅行

機械電気工学科

就職・進学状況



低学年から進路に対する意識を持って学生生活を有意義に！

5年担任 機械電気工学科 教授 櫻本 逸男

平成27年度の機械電気工学科の進路状況は、就職34名（地方公務員2名含む）、大学進学5名、専攻科進学3名です。今年は例年より就職希望者が特に多かったようです。

今年度の本学科に対する求人数は619社でした。平成15年度に私が担任を持ったときの求人数が309社でしたので、今年度はその倍の求人数になっています。他の教育機関と比較して、かなり恵まれた環境にあると言えます。

今年度の企業の採用活動は、全体的に4ヶ月遅くなり、広報活動が3月、試験が8月からということになりました。しかしながら、企業によっては例年通りの採用活動をするところも多いと予測し、年明けの1月には最初に受験する企業の調査をしました。実際にはマスコミでも取り上げられているように、水面下で採用活動を行う企業も数多くあり、実質的な試験時期が3ヶ月程度長くなったというのが正直な感想です。また、例年であれば、求人票に採用試験日がはっきりと記述してあったところが、今年度はその記述が無く、志望の企業に問い合わせをする必要もあり、対策を考慮する上で非常に不利な状況となりました。このことは学校のみならず企業側もずいぶん困惑している様子でした。結果的には、今年度の混乱で、受験日が8月以降の企業を希望していた学生が、早めに内定を決めるために他の企業を受験したり、逆に8月まで辛抱して待っていたことで合格率が上がったりと運不運があったようです。

さて、今年度の就職先を地域別にみると、県内が12名、広島・福岡・愛媛が4名、中国地区3名、関西地区1名、その他が14名です。半数近くが地元の大企業に内定していることが分かります。また、自由応募の2名を除いては、ほとんどが推薦応募であり、1社目で合格を決めた学生がほとんどです。

就職試験では、SPIなどの適性試験と面接、さらに小論文を課す企業もありますが、その中でも大学生や大学院生に混じって行われる面接は最も重要な選考材料となります。今年のみならず例年の就職試験の報告書をも、(1) 志望動機、(2) 入社してどんなことをしたいのか、(3) 高専ではどんなことをしてきたかということがよく聞かれています。

面接に対する準備として、まずは受験する企業をよく調査することがあげられます。最近では各企業ともHPが非常に充実しており、求人用のパンフレットよりも最新の情報が入手できます。面接の前に企業について十分に調査し、自分のやりたいことをはっきりさせておくことが重要です。

さらに、高専在学中に面接でアピールできる材料を揃えておくことが必要です。例えば、クラブ活動や学生会活動、ロボコン、プロコン、デザコンなどの競技会、海外語学研修、ボランティアなどの社会奉仕活動などは面接でのアピール材料となりやすいでしょう。また、寮生であるということもアピールポイントの一つです。面接のためにこれらの活動をするわけではありませんが、学生生活を無駄に過ごし、それらの材料がないと非常に苦しくなります。

一方、進学については、全体の中での希望者は少数でしたが、東京大学や東北大学のような難関校にも合格を決めています。大学編入、専攻科いずれにおいても進学後の進路を見据えた選択が必要です。学部卒あるいは専攻科卒で就職する場合は、激戦になるということは覚悟しておかなければなりません。また、大学院卒で就職する場合は、それなりの能力を必要とされるでしょう。

高専で就職するか進学するかいずれにしても最終的には就職しなければなりません。企業が求めているのは、問題解決能力があり、創造性豊かで、かつ協調性がある人材です。成績が良いに越したことはありませんが、それ以上に求められているのがそれらの能力です。学生時代にいろいろな経験を積んでおくと、社会においても何らかの形で必ず役に立つものと思います。

就職

中国電力（機械1名、電気2名）、日本精工、NOK、マルハニチロ、ジェイベック、キャノンマーケティングジャパン、富士高圧フレキシブルホース、日立オムロンターミナルソリューションズ、シマノ（2名）、村田機械、サントリー、新笠戸ドック、武田薬品、JX日鉱日石エネルギー、NHK、日立交通テクノロジー、JXエンジニアリング、三浦工業、コマツ、日本ゼオン、TOTO、東ソー、マツダ、協和発酵バイオ、メタウォーター（2名）、富士重工業、大阪シーリング印刷、三菱重工業、周南市役所、下関市役所

進学

広島大学、東京大学、東北大学、山口大学、長岡技術科学大学、徳山高専専攻科（3名）

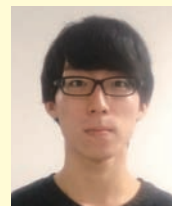
体験記
1

悔いなき選択を

私は高専に入学した当初から就職を考えていたのですが、どの企業に就職するか4年生の3月ごろまで悩んでいました。自分の本当にやりたいことは何なのかをぎりぎりまで考え、色々な企業について調べているうちに、NHKの音声という業務に辿り着きました。今思えば、この苦悩した時間が原動力となり、絶対にこの企業に就職するという強い思いに繋がったのだと思います。

4月ごろから就職活動は始まり、放送局の見学や、広島、大阪の説明会にも参加しました。一般応募だったため、大学生と同等の立場で戦わなければならず、高専生である自分をアピールして人事部の方に印象付けることがとても難しかったです。一番苦労したのがエントリーシートで、何度も先生方に添削してもらい、二週間くらいかけて完成させました。この時に、就職について考え、自分を見つめなおした期間が大いに役に立ちました。また、エントリーシートの提出期限と専攻科の入試、中間試験の期間が被っていたのでとても大変でした。面接の練習では、エントリー

機械電気工学科5年 竹尾 幸紘



シートを作ったときに自分の軸となるワードをいくつか決め、自分を明確に表現できるよう工夫していたので、言葉に詰まらずはきはきと話す練習をしました。

NHKの試験はSPI試験、筆記試験、一次面接、二次面接とありとても大変でしたが、自分でしっかりと計画を立て取り組むことで何とか乗り切りました。筆記試験では専攻科の試験のために勉強をしていたのでだいたいの問題は解くことができ、面接のときは落とされるのではないかと心配になるほど自分の熱意を伝えることができました。

「あなたはその企業に骨を埋める覚悟はできていますか?」この問いにはっきりとイエスと答えられるよう、自分を見つめなおし、企業について詳しく調べることが大切だと思います。そして、自分の意思や決意を存分に伝えてください。

NHK (日本放送協会)

体験記
2

衝動に駆られ。

私はこのたび、編入試験に無事合格し、来年度から東京大学へ学び舎を移します。なぜ大半が就職するなかで、進学を選択したかということ自分が優柔不断な曲者であることが大きな理由です。

私は4年生の夏休み前までは就職一本というスタンスで、このままなんとなく就職するのだろうと思っていました。自分が中学生のころに騒がれていた「就職氷河期」のことを考えると、職にありつけるだけでも大成功だ、と思っていました。

しかし、就職ということに対して常に違和感を持っていました。その違和感は小石のようなもので、優柔不断な私を動かすには軽すぎたけれども、小石を蹴り飛ばすには重すぎました。その微妙なもどかしさから私が解放されたのは、4年生の夏休みで体験した企業インターンシップでした。実際に働いてみて、知らないことが多かったのを痛感しました。また、その一か月前の全国高専大会で三冠を達成して、次は勉学に打ち込もうと思い、進学を決意しました。大学について調べていくうちに、広大無辺なマテリアル

機械電気工学科5年 山下 慶将



分野に興味をもち、「これがやりたい!」と衝動に駆られ、私はここでようやく小石を蹴り飛ばすことができました。小石とは、何も目的のない決断を下した罪悪感だったのです。わだかまりがなくなった私は、勉強に励み、無事合格にたどり着くことができました。

これから進路を考えるみなさんに助言したいのは、意志をもたない決断をしないことです。人は、今やっていることがやりたいことだと思い込み、合理化して、あたかも自らが大きな夢を実現でもしたような錯覚に陥ります。つまり、リスクを回避してした選択を「私がやりたいこと」といい丸めることは容易いということです。どんな選択をしてもいろんな不安、苦労があると思いますが、その分だけ、価値があるのではないのでしょうか。

本当にやりたいことを見極めて、いい選択ができることを祈っています。

東京大学



5年担任 情報電子工学科 講師 杉村 敦彦

早目の準備としっかりした対策を

何事においても、早めに目標を設定し、その目標に向けてしっかりと準備をすることが重要です。就職・進学においても同じことが言えます。今年の進路状況について、以下にその詳細を記します。

平成27年度の情報電子工学科の卒業予定者は40名(男子27名、女子13名)です。そのうち、就職予定者は26名、進学予定者は14名です。就職・進学予定先については、最後に示します。

今年度の求人状況は、昨年度100社増えた水準をそのまま維持しており、過去最高の504社からの求人がありました。この数字は、これまでで最多の会社数です。これは、不景気により採用を控えていた企業がやっと採用できるようになったことや、継続的に採用している企業でも採用人数を増やしてきたことによるものだと考えます。それに加え、高専が企業から高く評価されていることも強く感じました。来校される企業の方は口をそろえて高専卒の人は基礎力があり優秀で、伸び代が大きいといわれます。大学卒や大学院卒の学生を多数採用している企業でも、高専卒をもっと採用したいのだが、なかなか来てもらえないといわれます。会社によっては、工場運営(製造スタッフではなく、運営スタッフ)の採用はすべて高専卒にしたというところもありました。これらのことは、諸先輩方の努力の賜物だと思います。後に続く卒業生達もさらに頑張っ

てほしいと思います。

学生の希望調査は、従来どおり1月、2月に行いました。そして、春休みの3月には会社説明会も解禁されており、多くの企業が見学会や説明会を開催してくれていましたので、希望する会社には可能な限り参加することを勧めました。ここで、自分が希望する企業をしっかりと確認し、あとで後悔することのないようにしてください。また、この見学会や説明会では、学生が企業を知るだけでなく、企業側も学生を見ていることに注意する必要があります。

採用試験の時期については、経団連の指針もあって、多少混乱しました。また、会社側も時期を明確にできない

事情もあり、求人票に採用試験の時期がはっきり書かれていない企業も多々ありました。そのため、学生が希望する企業には直接連絡し、採用スケジュールの確認をする必要がありました。また業界によっては、かなり早くから選考を行うところもあり、就職活動は昨年よりも長期化しました。また、採用試験が8月以降の企業を希望する学生にとっては大変つらい就職活動となりました。そのため、就職希望の学生すべての行き先が決まったのは、10月上旬でした。採用試験の内容は、従来と同様で、SPI等の適性試験や専門試験に加え、2回の面接試験を行うところが多かったようです。なお、第一希望の企業への合格率は、約70%でした。なかには、自由応募を含めて、数社以上の企業に応募した学生もいました。内定状況は、県内が6名、広島、福岡、四国が7名、関西2名、関東11名となっており、半数が広島から福岡の範囲で、もう半数が関西・関東となりました。

進学については、専攻科への進学が8名、大学への編入が6名でした。最近編入が増えている筑波大学は、今年も2名が進学することになりました。第一希望の進学先の合格率は約71%でした。この数字は奇しくも就職希望のものとはほぼ同じです。

就職

インフォコム西日本、大晃機械工業、国際ソフトウェア、協和エクシオ(2名)、マツダE&T、ソニーデジタルネットワークスアプリケーションズ、新立電機、デルタ工業、日立ハイテクノロジーズ(2名)、リコージャパン、JX日鉱日石エネルギー、三菱電機システムサービス、マツダ、ナカバヤシ、KDDIエンジニアリング、安川オピマス、科学情報システムズ、中国電力、パナソニックAVCネットワークス社、三浦工業、アイヴィス、矢崎総業、東京電力、東ソー情報システム

進学

九州工業大学情報工学部、筑波大学情報学群(2名)、九州大学経済学部、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、徳山高専専攻科(8名)

体験記
3

就職活動を経験して

私は高専に入学した当初から、進路は就職にしようとしていました。そのときは具体的な就職先については決めていなかったのですが、高専で様々な専門科目を学ぶにつれ、電気や電子に関わる仕事をしたいと考えるようになりました。そして、私は日ごろのニュース等から電力に関して興味を持ち、4年次には中国電力ヘインターンシップに行きました。ここでは、業務の一部を体験させていただいたのですが、いずれの業務も各家庭の電気を担っているだけあって大きな責任を感じました。しかし、それと同等以上のやりがいを感じ、このような仕事をしてみたいと考え、中国電力の採用試験を受けることに決めました。その後、4年の後期に行われた「就学支援セミナー」に参加して就職活動に必要なことを学びました。今年度は企業の採用活動が前年度よりも遅い8月解禁だったので企業調べやSPIの勉強、小論文対策、面接練習などの準備期間を長く取ることができました。そのため面接本番でも大して緊張することなく落ち着いて受け答えをすることができ、無事に

情報電子工学科5年 藤本 洋平



内定を頂くことができました。

私は就職活動を通じて、準備を万全にすることの大切さを感じました。実際の面接では、相手の目を見てははっきりと受け答えしなくてはなりませんが、準備不足だと自分の発言に自信を持てず、視線が下を向いたり、声が小さくなったりしてしまいます。こうなってしまうと当然面接官からの印象も悪くなってしまいます。しかし、準備をしっかりとすれば本番でも自信を持って、落ち着いて発言することができます。

これから就職活動する皆さん、来年度の採用活動は6月解禁の予定ですが、早い段階から企業の情報を集めたり、面接対策をしたりすることによって、準備を万全にし、自信を持って本番に臨めるようにしてください。しっかりと準備できれば面接本番でも落ち着いて受け答えすることができ、よい結果を得ることができると思います。

中国電力株式会社

体験記
4

編入試験を経験して

私は就職にするか、進学にするかなかなか決められずにいましたが、この高専で得た知識を大学に進学することでさらに高め、応用できればと考えるようになり、進学することを決めました。

しかし、最初は当たり前ですがどういった大学が存在するかよくわかっていない状態でした。そこで、大学のパンフレットや先輩の状況、前年に出ていた編入の募集要項を見て受験する学校を決めました。受験する大学を決めた後は、入試を終えた先輩から編入対策の参考書についてアドバイスをもらったり、前年度までの入試の過去問を入手したりしました。

私は前述のとおり進学に決めるまでかなり悩んでいたためか、受験に対して完全に気持ちを切り替えることがなかなかできませんでした。そのため、受験勉強を始めたのは春休みが明けて5年生になってからで、それに費やした時間も決して多いとは言えないものでした。そのようななかでも、同じように編入を目指すクラスメート達が必死に受験勉強を頑張っている姿を見て、自分も刺激されていきました。

情報電子工学科5年 市之瀬 樹生



しかし、時すでに遅く結果的に勉強が不十分なまま受験に臨むことになってしまったのは今でもとても残念に思います。

私は勉強をしようとする意志の強さ、集中力が足りず、なかなか継続して学習をすることができませんでした。これが勉強量の不足につながりました。この勉強量の不足は受験時の不安にもつながります。私自身、不安で不安で仕方ないような心境で受験していました。この心境がどの程度結果に影響したかはわかりませんが、決してプラス方向には働いていないと思います。

これから編入を希望する学生は私を反面教師にして、しっかりと4年時から受験対策するようにしてほしいと思います。しっかりと勉強したというその自信は確かに受験時に生きて、よい結果につながると思います。

筑波大学情報学群情報メディア創成学類

土木建築工学科

就職・進学状況

「こころを磨く (EQ)」

5年担任 土木建築工学科 教授 佐賀 孝徳



平成27年度の土木建築工学科5年生の卒業予定者は、36名(男子25名女子11名)です。現在35名の進路が決定しており、1名は歯学部系の大学受験のための勉強中です。内訳は、民間就職10名、公務員7名、専攻科推薦入学8名を含め進学希望者19名です。(12月22日現在)

今年度の就職活動状況の特徴の一つは、選考開始時期が4月から8月に経団連の指導により変更されたことで生じました。経団連に直接属さない中小企業では従来に近い採用を行うところや指導に従う企業でも良い人材を取りたいことは同じですから、同業他社の動向を注視しながら、当初の計画を途中変更するなど、就職活動の混乱と長期化が生じました。学生の側も行きたい会社の実質上の受験日が8月である場合については、非常に不安を抱えていたことも事実です。また、8月初めには前期末試験であり、その調整も必要となりました。第二の特徴は、東京オリンピックなどに伴う建設業界の活性化に伴い、求人数の増加(336社)です。

本校では、全国展開の建設業、JRや電力・ガス会社など公益性のあるインフラ企業への就職、地元の大手製造業、地元の総合建設業(ゼネコン)、コンサルタントへと就職が決まりました。県内企業は、5割となりました。

公務員の求人数も昨年度からかなり増加しています。また、技術系の公務員は、土木建築の技術者が大半を占めることから、公務員希望は土木建築が有利ですが、下級生は低学年から公務員試験の問題集を解くなど早くから対策を行うことを薦めます。民間企業だけでなく公務員もリクルートで学校に来られ、説明会も行われるようになってきました。今年度は、国土交通省、市役所、山口県へ就職することが内定しています。

進学でも、各高専において行われる大学説明会もこれまでより増加しており、大学側も編入生獲得に力を入れています。最終的には、熊本大学2名、広島大学3名、神戸大学1名、三重大学1名、東京工業大学1名、新潟大学1名が合格しました。専攻科には、推薦8名が合格しました。また、他分野への進学となる広島大学数学

科、歯学部を目指して大学センター試験の準備を進めている学生、さらに声優を目指してその専門である専門学校に進む学生もいます。進学においても、早い時期に志望大学を決めて、着実に学力を向上させることが重要です。

来年度は、選考開始時期が8月から6月に変更になりますが、就職活動の準備(進路の決定、試験対策、面接練習など)は、従来と同様のスケジュールと考えて就職活動を進めておく必要があります。

土木建築工学科は長年、民間、公務員、進学のコースごとの指導を4年次から行っていますが、キャリア支援室の発足以来、低学年から進路に関わる系統的なサポートがなされるようになりました。そのほか、卒研の先生の指導、成績証明書、健康診断書などの学生課職員による書類作成など、実に数多くの教職員の方々にお世話になります。感謝の心を忘れず、自らの将来の進路に向けて取り組んでほしいと思います。

これから進路を考える学生達へのアドバイスとして、①進路についてできるだけ早く真摯に考え、将来に向けて行動を起こすこと。②勉強はもちろんですが、たくさんの仲間で行うクラブ活動やロボコン等の参加、読書など感動体験を数多く高専時代にする。そして「〇〇を真摯に取り組んできた」と自信を持って言えるような充実した生活をして、将来の自分を支える財産となる「こころ」を磨き(EQと言われる心の知能指数を高めること)、心身共に健全な成長を促すことだと思います。そのような学生を会社は採用したいと考えています。

就職

国土交通省(3名)、新日鐵住金ステンレス、JR東海、巽設計コンサルタント(2名)、中国電力、東京ガス、東ソー、日本ナレーション演技研究所、長谷工リフォーム、光市役所、広島市役所、防府市役所、前田道路、山口県、洋林建設

進学

徳山高専専攻科(8名)、熊本大学(2名)、神戸大学、新潟大学、東京工業大学、広島大学(2名)、三重大学

体験記
5

私の備忘録

そのときは、突然やってきました。8月11日。夏休み前の少し気の抜けた授業の合間に、担任の先生からの着信があることを確認しました。急いで電話をかけ直し、先生からの言葉に耳を傾けながら、4ヶ月間の戦いを思い出していました。

初めての就活、今年度から就活開始時期が3ヶ月遅くなることも私の不安を大きくさせていました。春休みにはSPI試験の勉強を始めようとしたのですが、実感が伴わず、思うように勉強に身が入りませんでした。春休みが明け、目標とする企業を決定したときから、就活が始まったという現実感をもつことができました。エントリーシートにはたいそう苦しみました。なかなか納得のいくものができなくて、5月上旬の受付初日に間に合いませんでしたが、なんとか無事に提出を済ませた時には就活に集中できる精神になっていました。6月になって、試験日が8月7日と発表され、内容は、SPI試験と小論文と面接試験。

土木建築工学科5年 久保 望未



SPI試験に対しては、何度も繰り返し問題集を解き、私は小論文が苦手だったので、試験の1ヶ月前には小論文の練習も始めました。就職試験直前の2週間は学校の期末試験週間とも重なり、明けても暮れても、ひたすら勉強に追われ、終わりの見えない感覚に襲われて、苦しい日々を送りました。就職試験が近づくことが恐ろしくなり、怖じ気づいた私に、テストの合間に面接練習をし、いろいろな先生方がアドバイスをして下さいました。友達からの励ましも力になり、多くの人の支えがあって無事、試験を終えることができました。

先生からのお電話で「合格」という言葉をこうして聞くことができたのも、長い就活の中で仲間や先生方に支えていただいたからだと思っています。感謝の気持ちを忘れず、立派な社会人になろうと思います。

中国電力株式会社

体験記
6

好きなことで生きていく

僕は最初の進路希望調査で「公務員」と書きました。その頃は特に何がしたいということもなく、将来どうありたいのか、どんな仕事に就きたいのか、ということはまったく考えていませんでした。そんな僕がなぜ「進学」、そして「工学部」ではなく「理学部 数学科」にしたかについてお話しします。僕は低学年の頃から数学が好きで、教科書を自分で読み進めたり、簡単な参考書を探して勉強したりしていました。自分の知らない数学の理論や考えを学ぶことがとても楽しく、もっと専門的に勉強をしたいと思うようになりました。そして将来について真剣に考えた時、それを生かしたことがやりたいと思い、数学科への進学を志しました。

しかし、受験勉強の日々は決して楽なものではありません。今まで勉強してきた内容よりも高度な知識が求められ、解けない問題もたくさんありましたが、

土木建築工学科5年 中村 一貴



それを解決するたびに自分の知っている世界が広がっていくようで、楽しい日々でもありました。

現在進学を目指している人も、そうでない人も、学校で勉強できる時間を大切にして過ごしてほしいと思います。勉強をするということは決して楽なことではありませんし、つらい時期もたくさんあると思いますが、勉強をすることで自分の知らないことを知ることができ、日々の生活に楽しみが増えます。自分の好きなことや、興味のあることを積極的に学んで、納得するまで追求することはとても楽しいことです。学生時代はそんな時間にあふれています。その時間を大切にして、自分の夢や目標に向かって精一杯頑張ってください。きっと楽しい日々になると思います。

広島大学(理学部 数学科)

機械制御工学専攻

就職・進学状況



恵まれている専攻科の就職および進学事情

機械制御工学専攻幹事 機械電気工学科 教授 藤田 重隆

平成27年度の機械制御専攻の2年生は8名で、就職希望が4人、大学院への進学希望が4人でした。今年度の就職戦線は、就職試験の解禁日が8月1日に変更となり、就職する学生も採用する側の会社も、手探りの状態でのスタートでした。一方、大学院への編入学試験は、例年通りの日程でした。

まず就職ですが、上述したように解禁が8月以降となり、それを遵守する会社とそうでない会社があり、試験日が大きく異なりました。そのため就職希望の学生は、希望会社を早く決めていたものの、試験時期が大きく異なっていました。しかし、学生のレベルの高さもあり、4人全員が自分の就職希望の会社の内定を8月上旬にはもらっていました。

一方、大学院への進学希望学生は、昨年度から進学先をいろいろと研究し、その試験に備えての資料収集等の試験対策もっており、こちらも全員8月末までに希望する大学院への進学が決まりました。

総括すると、企業側および大学院側ともに、専攻科学

生を高く評価しており、どちらも是非来てほしいという姿勢が見られます。特に、今年度の機械制御専攻への求人は、就職希望学生4人に対して440社ですので、学生が希望すればどの企業の就職試験もほぼ受けられます。また大学院進学についても、大学院側は、卒業研究および特別研究を経験して、まとめる能力が高い専攻科学生を取りたいという要望が非常に高いのが現状のようです。

以上のことから、就職および進学を考えている学生諸君は、専攻科が就職および進学に関して恵まれていることを考慮して、将来を決めていただければと思います。

就職 日立製作所交通システム社水戸事業所、日立製作所交通システム社笠戸事業所、ニコン株式会社、コベルコ建機株式会社

進学 九州大学大学院総合理工府、横浜国立大学大学院工学府、東京医科歯科大学大学院、京都工芸繊維大学大学院

就職・進学試験体験記

体験記
7

編入生、内定決まったってよ

機械制御工学専攻2年 國廣 創



私は株式会社日立製作所交通システム社笠戸事業所に就職することが決まりました。幼い頃から運輸機器に興味があり、将来的には乗り物に関わる仕事に就きたいと考えていたのですが、21歳になるまでぼんやりと過ごしてしまいさすがに焦りを感じていました。そこで、専攻科1年の夏季に行われる二か月間の長期インターンシップ期間を利用して、鉄道車両の製造を行う笠戸事業所における就業体験に参加しました。笠戸事業所で推進される鉄道車両の生産効率向上に向けた生産技術改革に魅力を感じ、私も将来はグローバル化や熟練工の減少等の時代の変化に対応できる生産方式を考案・導入できるエンジニアを目指したいと考え、笠戸事業所を受験することを決意しました。本格的に就職活動を開始したのは2月末と遅めです。経団連の指針で就活解禁が遅れるといわれていたのですが、実際は例年通り6月から事業所とのマッチング面談が開始され、例年通りのスケジュールで就職活動を進めました。

就職活動で最も武器になったのが、インターンシップを通じて社内です。求められる人材像を把握できたことです。求められる人材像を意識しながらエントリーシートや面接対策を進めることで、一本の幹を自分の中で持つことができ、臆することなく面接に挑むことができました。また、高専編入前はハンドボールの強豪校(ベンチでした)に通い、編入後も高専のハンドボール部で活動したので、部活動に関する話題で自分を売り込むことができました。部活動に限らず、学業以外に何か打ち込んだことがあれば、就職活動はかなり楽になります。

ネットや本を用いた企業研究はもちろん大事ですが、インターンシップや工場見学をするチャンスがあれば、ぜひとも参加することをお勧めします。興味のある企業が見つかったら、まずは先生方に相談してみると良いかもしれません。

日立製作所交通システム社笠戸事業所

情報電子工学専攻

就職・進学状況



情報電子工学専攻幹事 情報電子工学科 准教授 古賀 崇了

インターンシップ制度の活用を

今年度の情報電子工学専攻2年生は、全7名中1名が大学院へ進学予定、6名が就職予定です。進学予定者は専攻科1年次の長期インターンシップでお世話になった国立の大学院大学への進学です。また、就職予定の6名中1名がインターンシップでお世話になった企業への就職となります。

大学院では活動の大部分が研究室中心になりますので、進学に際しては進学先の研究分野、雰囲気、将来のキャリアパスとして適切かを十分に勘案してから所属研究室を決定することが大変重要になります。一方で、企業へ就職する場合も、分野、職種、企業風土などと、自分の将来のキャリアの関係性を考えることが非常に重要になります。進路選択は自分のキャリアを決定する重要な判断ですので、伝聞情報のみで判断するのではなく、できるだけ多くのことを自分の目で見て、体験して得た情報を持って判断して欲しいと思います。

専攻科2年生になると通常の単位取得の他に特別研究、学会発表、学位取得準備に忙しくなり、これらと並

行して就職の選考や大学院受験を進めることになります。余裕のない中で慌てて大事な決定をすることがないように、早めに進路を考え、選考や受験の準備を始めましょう。学生のうちはインターン生として企業も大学も広く門戸を開いてくれます。1年次のインターンの期間をフル活用すれば、複数の企業・大学で就業体験や研究体験をすることも可能です。結果としてインターン先に進学・就職することにならなかったとしても、様々な実体験に基づく適切な判断ができるかと思います。ぜひとも、インターンシップの制度を最大限に活用してください。

就職 ソニー LSIデザイン、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、東ソー情報システム(2名)、富士通、富士通関西中部ネットテック

進学 奈良先端科学技術大学院大学(情報科学研究科)

就職・進学試験体験記

体験記
8

大学院を目指す後輩たちへ

情報電子工学専攻2年 藤井 公大



大学院の受験は、志望校を決めることから始まります。志望校の決定が早ければ早いほど、志望校の出題範囲が早く分かり、計画的に対策できます。肝心の志望校の決め方ですが、これは「自分のしたい研究ができるかどうか」で決めましょう。大学院は大学以上に「研究内容」に焦点が当てられます。受験時には、研究計画書の提出を求められたり、面接で研究内容について詳しく質問されたりしますので、この時「やりたい研究がこの大学院ならできる」ということをアピールできることが大変重要になってきます。まだやりたい研究が決まっていない場合は、専攻科1年次の長期インターンシップや各大学院で実施される体験入学等を利用して下さい。実際に大学院の教授や学生と話すことができるので、やりたい研究を見つける良いきっかけになると思います。

志望校が決まったら、次は大学院の出題範囲を基に勉強を開始します。現在情報系の大学院の試験問題は大体、数学・英語・専門科目で構成されています。数

学と専門科目は、試験の半年前までに範囲を一通り終え、残りの時間を復習に当てると良いでしょう。参考までですが、数学については高専の教科書の復習から入り、足りないようなら大学院の学部で使われている教科書や大学院試験対策問題集で勉強すると良いかと思います。英語は、一番時間がかかる科目と思うので、長い目で見て勉強する必要があります。どの大学院もTOEICスコアの提出を求めていると思いますが、もちろん高スコアの方が有利に働きます。私が試した勉強法の中で一番効果が出たものは「精読」です。詳細は省きますが、当時400点台だった私のスコアが約1ヶ月間で200点近く上がりました。勉強法の一つとして参考にして下さい。

以上が私から後輩たちへのアドバイスです。このアドバイスが少しでも皆さんの役に立つことを祈っています。頑張ってください。

奈良先端科学技術大学院大学

環境建設工学専攻

就職・進学状況

準備と積極的な行動を

環境建設工学専攻幹事 土木建築工学科 准教授 島袋 淳

今年度の環境建設工学専攻2年生修了予定者は7名で、うち就職予定6名、大学院進学予定1名となっております。就職予定者の内訳は民間就職5名、公務員1名となっております。民間就職に関しては自由応募4名、学校推薦1名で内定を頂いております。今年内定を頂いた企業のほとんどは一般的に大手と呼ばれる企業であり、また本科、専攻科も含めて今まで本校から直接就職していない企業から内定を頂いております。これまで実績のない大手企業からの内定が増えた理由として、1年生の段階から大手への就職活動を考え、それに向けた準備をし、積極的に行動したからだと思います。専攻科生の就職活動は昨年にも記載しましたが学校推薦よりも自由応募がメインです。自由応募は色々な企業を受けることができる反面、多くの受験者の中からしっかりと自分自身をアピールしていかなければなりません。今年の2年生はこのアピールがしっかりできたのではないかと思います。なかでも内定を頂いた企業の担当者から、

入社後は非常に期待しているとお言葉を直接頂いた事、また学校推薦で内定を頂いた1名においては当初、自由応募で受験していたものの急遽企業のほうから学校推薦に変更してほしいと連絡を受けたことなどがあり、学生が準備してきた成果を積極的にアピールでき、企業側にその優秀さを認めさせたのだと思います。

最後になりますが、来年度の就職活動の解禁は6月に変更ということで、今年とどう変わるかわかりません。ただ言える事は将来を見据え、準備をしっかりと、積極的に行動して企業側にアピールしていくことが大切だと思います。

就職

国土交通省中国地方整備局、日本総合住生活、鹿島建設、積水ハウス、竹中工務店、日揮

進学

九州大学大学院

就職・進学試験体験記

体験記
9

機をつかむための「準備」

環境建設工学専攻2年 村上 智哉



私は本科5年生の頃から、漠然としたイメージではありましたが、「海外で働くことの出来る仕事に就いてみたい」という考えを持っていました。そのため、専攻科1年次にはTOEICの学習に力を入れていました。しかし、海外で働くにはどのような業種に就けば良いのか、イメージが定まっておらず、企業選びには迷いがありました。そこで専攻科幹事の島袋先生に相談したところ、エンジニアリング業界（プラント建設を請け負っている業界のことで、国内では新規事業が少ないため、国外で受注を得ることが主です。）を紹介して頂きました。その内の数社を調べていく内に、「この仕事をやりたい!」という思いが芽生えました。

そうして就職活動を開始したのですが、第一志望の日揮株式会社は、徳山高専はおろか、高専生自体をここ20年間採用していませんでした。しかし、とりあえず挑戦してみようという考えで、本社で行われた会社説明会に参加しました。その際に、土木建築系の採用担当の方と個別に面談させて頂く機会を得ることがで

き、本年度から高専生の採用を再開するというお話を伺い、一安心。また、志望動機について話す機会もありました。正式な面接ではないが必ず聞かれるだろうと考え、しっかりと準備を行っていました。後日、自由応募ではなく学校推薦で採用過程を行うと連絡を頂くことができました。学校推薦ということで、その一社に専念することにし、落ちついてその後の面接練習に取り組みました。

私の場合、面談前の準備を入念に行ったことで、運も味方し、それをつかむことが出来たと感じています。また、日頃から英語学習に取り組んでいたことが、国際貢献したいという志望動機の裏付けになりました。直前の準備と日頃からの準備、両方が就職活動を行う上で大切です。就職活動は十人十色ですが、これから臨まれる方も、準備を大切に、第一希望を勝ち取ってください!

日揮株式会社

当たり前を当たり前

機械電気工学科 第37期卒
日立交通テクノロジー株式会社 河野 弘基

～社会人になり一年間～

社会人になり、あっという間に一年間が経とうとしています。現在私は設計業務に携わっており、日々分からないことが多くあります。分からないことを学び、教えていただくことで、新しいことを身に着けることができ、充実した日々を送っています。分からないことが多くある社会人生活ですが、この一年間、私は学生時代の経験が大きな力になっていることを実感しています。

～徳山高専での5年間～

私は徳山高専での5年間、バドミントン部に所属し、オーストラリアでの語学研修や学生会役員としての高専祭の準備、コンテストへの応募など様々なことを経験しました。語学研修では、初めて海外に行き、たくさんの友達ができ、世界の広さを実感しました。学生会活動には、部活の先輩に誘っていただき、たくさんの知識と技術を身に着けることができました。これらの経験は成功したことばかりではありませんでしたが、失敗こそ大きな力となりました。これらの経験の中で、たくさんの知識を身に着け、私自身の未熟さ、仲間と一つのものを作り上げることの大変さを知ることができました。これまでの経験は、たくさんの経験のチャンスを提供してくださった先生方、学生会に誘ってくださった先輩、一緒に活動をした仲間など、多くの人のおかげがあったからこそだということを、社会人になり特に感じます。



2年生の時 オーストラリアでの語学研修

～感謝の気持ち～

そこで私は、「感謝の気持ちを持つこと」を特に意識し、社会人生活を送っています。社会人になりこれまで、分からないことばかりで多くのことを教えていただきました。また、常に見守ってくださり、たくさんのアドバイスをしていただいています。感謝の気持ちを持つことは、そのことに対する意欲が高まるのではないかと思います。そして私は現在、早く成果という形で感謝の気持ちを伝えたいと思っています。

「ありがとうございます」と口先だけで言うことは簡単なことです。しかし、そこに気持ちを込めることで、自分自身の中で何かが変わると私は思います。

～挨拶をすること～

そしてもう一つ、「挨拶をすること」を常に気にかけています。「初めて誰かと話をするとき、第一印象は大きな影響がある」と本で読みました。私もそう思います。そこで、第一印象として、そしてコミュニケーションのきっかけとして、挨拶をすることを欠かさずに行っています。

挨拶を行うことの成果かどうかは分かりませんが、会社では多くの方と話をするできるようになり、日々楽しい生活を送ることができています。

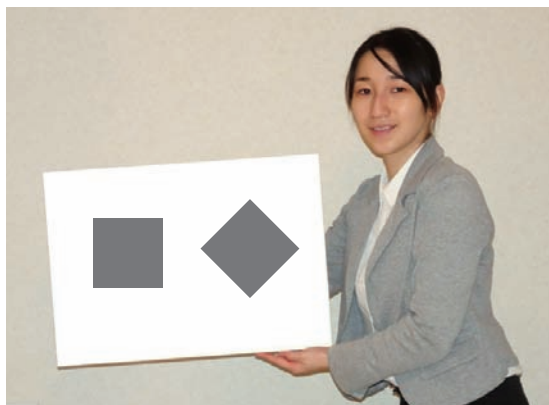
～最後に～

少し長くなりましたが、私の徳山高専での経験は、社会人になった今、大きな力となっています。徳山高専では授業でも実技の授業が多くあり、たくさんの経験をできる環境があります。また授業以外でもコンテストや学生会活動、部活動などたくさんの経験の場があります。その経験の場を有効に活用し、有意義な学生生活を送ってください。

そして「挨拶をすること」と「感謝の気持ちを持つこと」この二つを少しだけ意識し、日々を送ってみてください。この当たり前を当たり前にすることがみなさんの力になればと思います。

自分の軸をつくること

情報電子工学科 第30期卒
山口大学 URA 室 (URA 支援事務員) 福田 弓恵



高専を卒業して7年経ち、2015年の2月から山口大学のURA室 (University Research Administrator) に所属して、先生方の研究資金獲得支援や研究成果の広報等に携わっています。URAというのは、大学に所属する研究者の研究活動を活性化するためのマネジメント人材を指します。私が高専を卒業した頃には、想像もしていなかった部署に所属することになりました。現在までの経緯について、まずは私にとって大きな転機となった、大学での経験について紹介します。

皆さん、写真に写っている正方形と菱形の図形を見てください。どちらが大きく見えるでしょうか?多くの人は菱形の方が大きく見えるかもしれません。しかし、2つの図形の面積は同じです。正方形の配置角度を45度変えただけで見えの大きさが大きくなる傾向は、エルンスト・マッハによって報告されています。それでは45度以外の角度のときはどう見えるのか...?というのが、大学での卒業論文のテーマでした。この取り組みをきっかけに、研究をさらに続けたいと思って大学院に進学し、2015年の3月に博士(学術)を取得しました。

話が戻りますが、高専卒業後に大学に進学したきっかけは、部活動でした。私は様々な事に興味があったので、高専ではアーチェリー部、美術部、伝統文化に親しむ同好会、英語に親しむ同好会に所属していました。伝統文化に親しむ同好会の顧問だった長廣先生を通じて、藍染め作家の飴村先生をはじめ様々な人に出会いました。先生方から受ける刺激や、お花や絵・藍

染めの作品作りを通して、高専で学べる技術だけではなく自分の感性を磨くためにデザインの勉強をしたいと感じるようになりました。その後、山口大学工学部の感性デザイン工学科という、建築と情報工学に加えてデザインが学べる全国的にも珍しい学科に進学しました(現在では、建築がメインに変わりつつあります)。大学では、デザイナーの先生の研究室に入り、デザインの勉強とデザイン技法に関連する視覚心理的な影響(図形の見えの大きさ等)の研究をしました。研究を進めるにあたり、高専で学んだプログラミングの技術が大いに役立ちました。私の行っていた実験では、画像をディスプレイに提示して、感覚量を実験参加者に評価させていました。そのため、ディスプレイに表示する画像の大きさや順番等を正確にコントロールする必要があります。高専の先生方の熱心な指導のお蔭でプログラミングは好きだったので、画像提示プログラムを作成しました。それまで、その研究室には画像を提示する実験用のプログラムはなかったので、実験方法の幅が広がったと研究室の先生に喜ばれました。

URA室に所属したのは、研究室の先生に勧めて頂いたのがきっかけです。最近では、大学で学んだ専門を生かして研究費獲得のための申請書に使用する図を作成したり、情報電子工学科で学んだ知識を生かして申請書のブラッシュアップを行ないました。私にとっては、「自分はこれを学んでいて、これが得意です」と言える専門性があることによって、業務の面でも自信を持つことができるという面でも助けられていると感じます。教育学が専門の先生に教えて頂いたのですが、イノベーションを起こすのは「T字型の人材」と言われているそうです。それは、1つの深い専門を軸に、幅広く異分野の人との連携を進められる人だそうです。高専の5年間は、自分の専門の軸をじっくりと成長させることができる貴重な機会だと思います。それに付随して、思考力や課題への取り組み方など、気づかないうちに多くの能力が成長していると思います。私の少ない経験からすると、無駄なことなんて無いと思います。後輩の皆さんには、自信を持って勉強や部活動等に取り組んで頂きたいと思います。

北へ南へゼネコンマンの仕事

環境建設工学専攻 第12期卒
株式会社 大林組

兼重 有佑

私は2008年に環境建設工学専攻を修了し、大学院を経て総合建設会社、いわゆるゼネコンに入社しました。高専の土木・建築学科を卒業された方の多くが同業分野で活躍されており、学生の皆様もよく耳にする職業だと思います。私はこれまで、後述する海外工事等、様々な経験をすることができました。今後の皆さんの進路の参考として、一助となれば幸いです。

<仙台赴任と東日本大震災>

入社後、最初の赴任先は東北支店の仙台市でした。多くの同期入社の者が東京・大阪に配属されるなか、東北に配属されたのは他に3名だったことを記憶しています。仙台では、クリスマスのイルミネーションで有名な定禅寺通り近くに29階建のタワーマンションを建設する工事に携わりました。

工事軌道に乗り、24階まで到達したとき、東日本大震災が発生しました。地震発生時は、ちょうど最上階におり、施工足場はガシャガシャと金属音を立て、タワークレーンは大きく揺れながら迫ってくるような状況でした。幸いにも人的被害は無く、施工中の物件にも大きな損傷は無かったため、一か月後には工事を再開することができました。

災害発生後の街では、警察や消防隊はもちろんですが、当社を含め建設会社も活躍していました。建設会社は常日頃からヒトとモノを扱います。有事の際でも作業員や重機、物資をかき集め、災害復旧に全力を尽くす姿を目の当たりにし、感動したことを覚えています。

<台湾・台北市の大型多目的ドーム新設工事>

仙台から東京に転勤となり、半年程過ぎたところで次の配属先が決まりました。新たな配属先は台湾の台北市に建設する大型多目的ドームのプロジェクトでした。当社は海外工事を多く手掛けていますが、入社二年目で海外現場に配属されるのは異例のことで、非常に驚きました。

工事の初期段階から携わることができたため、工事計画の作成等を通じて、どのように海外の現場を立ち上げていくか実体験することができました。

このプロジェクトはドーム構造を成す複雑な鉄骨トラスが特徴ですが、現地の鉄骨ファブと協議を重ねながら、どのように高い精度の鉄骨部材を製作するか検討しました。当社は東京スカイツリーを施工しましたが、その工事経験者も多く配属されており、先輩技術者から沢山のことを学ぶことができました。

鉄骨建方工事では、約5,000トンに及ぶ屋根鉄骨を地上で組み立て、ジャッキで地上60mまで持ち上げるというリフトアップ工法を採用しました。非常にダイナミックな工事で、一般に経験することができない工事を間近に見ることができたことも良い経験になりました。

鉄骨の製作が開始された後、地下躯体工事を担当しました。地上と地下の工事を同時に進める逆打工法を採用し、下へ下へと躯体を構築していきます。それまでは事務所内での業務が多く、通訳の方もおられましたが、地下工事を担当してからは現場に出て職人さんと話す機会が多く、中国語に苦労しました。幸い台湾は繁体字という日本の常用漢字に近い漢字を使用するため、筆談が思いのほか通じました。しばらくすると、中国語にも慣れ、コミュニケーションが取れるようになりました。海外で仕事をするということが大変なイメージがありますが、環境に身を置くと意外と何とかなるものだと痛感しました。

地下躯体もほぼ完成し、昨年10月に約4年間という長期の赴任を終え、日本に帰国しました。現在は、東京の現場で業務にあたっているところです。

<在学生の皆さんへ>

建設工事には、発注者・設計者・監督官庁・専門工事会社の作業員・近隣住民等、非常に多くの方が関わります。建設業に限らずかもしれませんが、人に思いを伝えることが大切です。高専は高度な勉強を行いますが、5年間同じ同級生と過ごすなど、閉鎖的なところがあると思います。是非、学生の間にいろいろな場所に出て、年代を問わず、いろいろな人とコミュニケーションを図ってみてください。

今後の皆さんの活躍を卒業生として楽しみに期待しています。

徳山高専同窓会「高城会」

「高城会会長のロボコン応援記」

高城会会長 川村 宗弘

11月末の、22日、前日新橋でさらさらのSLを見た翌朝、いざ国技館へ向かいました。私が会長を拝命して2度目のロボコン(正式名称:アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2015)の応援、昨年は惜しくも全国大会出場はできなかったものの、一昨年は全国優勝で、今年も良い成績を期待しながら電車で向かいました。ただ、ひとつ気がかりなことがありました。一昨年は入場まで時間があったため、国技館入口にあるお稲荷様にお参りしたのですが、今年は意外と早く入場が始まりお参りするきっかけを失ってしまった



のです。仕方なく、入場後、お参りしましたが12:00を過ぎていたのが気がかりでした。

さて、本戦の相手は都立高専の「荒鯨(あらはぜ)」、対する徳山高専は「捲土重来(けんどちょうらい)」。徳山高専の「捲土重来」は木材をベースになかなか良いフォルムだと私自身感じていました。一方、相手の都立高専は予選最速記録を持つ「荒鯨」、一昨年の一回戦ごとに進歩する姿を「捲土重来」にも期待し応援しましたが、競技時間3分を前に、都立高専の「荒鯨」にVゴールを決められ、残念ながら一回戦負け。

競技は輪投げをいかに早く正確にというものでしたが、結局一昨年徳山高専が決勝戦で勝利した相手、奈良高専の「大和」が圧倒的強さで、ロボコン大賞と優勝を勝ち取っていきました。徳山高専の唯一の救いは「特別賞」を受賞したことと、大賞候補として8校にノミネートされたことでした。

夕方、祝勝会ならず慰労会として選手とともに、応援に駆けつけていただいた前校長の天野さん、井上さんをはじめ、森野呉高専校長、ほか多くの教職員、卒業生により会を催しました。特に指導されてきた藤本先生、本当にご苦労さまでした。来年も全国大会に連れて行ってください。今度はちゃんと国技館のお稲荷さんにお参りしますから。

徳山高専ホームカミングデー

徳山高専では、2015年10月31日(土)に徳山高専ホームカミングデーを開催しました。ホームカミングデーは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々を母校にお迎えし、互いに親睦を深めていただくとともに、現在の徳山高専を地域の皆様にも広く知っていただく機会として、昨年度、高専祭を開催している期間中に第1回を開催しました。

第2回目となる今年は、卒業生とご子息、元教職員を合わせて28名にご参加いただき、茶話会の席では、多数の教職員も参加して卒業生と現任教職員との交流



を図るホームカミングデーに相応しい場となりました。茶話会に続いてキャンパスツアーを行い、新しく改装された校舎の屋上からの眺望をお楽しみいただきました。また、希望者の方には、学生寮の方へのご案内し、思い出話に花を咲かせながら学生のときには立ち入ることのできなかった施設を興味深そうに眺めておられました。

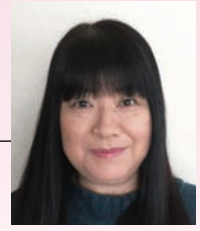
末尾となりましたが、ご参加いただいた方々にお礼を申し上げるとともに、来年度以降の徳山高専ホームカミングデーへのご来場もお待ちしております。



退職者挨拶

退職にあたって

教育研究支援センター 技術長 鳥居 恵子



1976年4月、徳山工業高等専門学校教務係に採用されてから40年、3月に定年を迎えることになりました。採用された頃はまだ学生課はなく、事務長、教務係長が私の上司でした。今の私は幸せすぎるのか、ストレスが多いのか、ただ単に食べるのが好きなだけなのか、随分太ってしまいましたが、当時は今よりずっと細い20歳の女の子でした。今では考えられませんが、教職員のサークルも結構ありました。今年一緒に定年する3人娘はそれらのサークルに誘われることが多く、なぜか皆さんとても優しくったように記憶しています。私は野球のマネージャーとテニスをしていました。昼休みや放課後、休日に活動し、いろいろなところに行ったことを懐かしく思い出します。



テニスの試合風景

仕事では、コンピュータを専門にしている人がほとんどいなかったもので、「最低でも、5年は辞めないでくださいね!」と言われたのですが、40年も勤めることになりました。電算機室（現在の情報処理センター）に配属され、噂によると当時1億8千万円もするらしい中型コンピュータの管理を任されました。他にその仕事をする人も教えてくれる先生もいませんでしたので、何から始めていいのかわからないまま、高そうなコンピュータを使えるようになるのに精一杯だったような気がします。先生方は1枚1円するパンチカードにプログラムを1行打ち込んで、コンピュータ処理を依頼するために、1000枚以上のカードを持って来られました。私は落とさないように読み込ませて処理をしましたが、うまく

動かないことも多く、なぜ、どうしてなのという毎日でした。また、電算機室の利用方法、運営方法など何でも一人で決めて、利用者に少しでも便利に使っていただくにはどうすれば良いか考える毎日でした。

コンピュータは、最初は10年で、その後はだいたい5年ごとに更新されました。高そうな中型コンピュータから、UNIXのサーバ、ソードのマイコン、FM-7のパソコン等々と変わりました。コンピュータの言語もFORTRAN、COBOL、HPL、C、SQL、html、PHP等々を勉強し、新しい言語を追いかけてきましたが、最近は、なかなか追いつけない状況です。パソコンが普及してからは、ユーザの皆様の方が詳しいことも多くなりました。また、1996年に、情報処理センターは二人体制になり、私の知っていることはすべて引き継ぎ、現在では、もう一人の方がはるかかなた先まで行ってしまいました。もう、すっかり安心です。

また、40歳の時に、山口大学の夜間に行くというわがまを許していただき、皆様にはご迷惑をおかけしましたが、貴重な体験と大きな財産を得ることができ、皆様にたいへん感謝しています。次々に好きなことをしながら、若い学生たちを毎日見て仕事をしてきたような気がします。とても楽しい徳山高専での幸せな40年でした。ほんとうにありがとうございました。

今後は、新しく採用される技術職員に技術伝承をするために、もうしばらくお世話になると思います。最後に、徳山高専の今後のご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。



第6回卒業式

思い出がいっぱい

教育研究支援センター 技術専門員 山本 孝子

徳山高専で勤務して39年間、長い間お世話になりました。最初に面接で来校したとき、自転車に乗ったまま登れない高専坂にびっくりしました。しかし、坂を登った後の眺めは、瀬戸内海が見渡せる絶景で感動したことを覚えています。

所属は事務職で、学生課教務系の技官で情報電子工学科に配属でした。仕事は汎用計算機のHITAC8150やOKITAC-4300Cでプログラミングの演習サポートとメンテナンスが主で、学生気分勤務していたことを思い出します。年齢が近いこともあり、学生との思い出も多く、授業が休講になったら、学生とピザを食べに宇部まで行ったこと（もちろん時間休暇で）などが、昨日のこのように思い出されます。卒業後も折に触れて訪ねてきてくれることが、私の人生の糧となっていき、辛いときも乗り越えられてきたと思います。卒業生との繋がりは大切で、私にとっては宝物となっています。



クライアントサーバシステムでの演習風景(1995年)

技術面では、情報系の日進月歩の進歩についていけずに悩みました。採用時にはCOBOL、FORTRANやアセンブリ言語のプログラミングサポートでした。しかし時代の流れと共に、授業内容はPASCAL言語さらにC言語に、そして最近ではJAVA言語へと変化しました。上記の言語の変化と共に、計算機の核であるOSはCP/M、MS-DOSからWindows10、UNIX、Macと変わり、様々なOSと関わってきました。一番苦労した

のは、ネットワークの普及と共に、分散型コンピュータの導入によりクライアントサーバシステム構築が必要となったときです。マニュアル通りに動かず、色々な本を購入して勉強しても解決できない状況に、泣きたい時も幾度かありました。どれも独学で学ばなければならないことばかりで、習得が遅く先生方や学生にはご迷惑おかけしたと思います。暖かい気持ちでお付き合いいただいたことに感謝しています。これらで学んだことは「聞くは、一時の恥、聞かぬは一生の恥。」解らないことはいろんな人に正直に聞くということを学びました。

直接仕事とは関係ないことで思い出に残ることは、昼休みのバドミントンとソフトバレーです。運動能力は思うように上達しなかったのですが、毎日みんなと楽しくおしゃべりしながら運動することで、人間関係が悩むことが少なくなり、コミュニケーション能力が備わっていたようです。(この楽しみは、いつの間にか消滅していました)



次に、アフターファイブの習字教室です。週一ですが、数人で話の花を咲かせた集まりは、ストレス解消となっていました。筆を持つことが楽しくなった頃、校舎改修が始まり、習字教室は中途半端で終了です。退職後は、余暇を利用して、習字の練習を再開したいと思っています。



このように徳山高専で勤務した39年間で走馬灯のように思い出され、その時々に出会った多くの方々に支えられ、励まされ、癒されてきたことを改めて実感しております。私が退職時まで勤められたことは、皆さまのお蔭と心より感謝しております。

『皆さま、ありがとうございました。』

退職者挨拶

出合いに感謝

総務課長 兼本 和枝

皆さま、お世話になりました。

徳山高専在職中の多くの方々との出合いが、私の生涯の財産となり、そして、出会った皆様のおかげでこの退職の日を迎えることができました。そのすべての方々から「感謝」の言葉を申し上げたいと思います。

開校2年目の4月1日、徳山高専に採用された私の初仕事は、仮校舎から現校舎への引越でした。辞令交付後、すぐに作業着に着替え、荷造りと掃除です。新しい職場への期待と不安のなか、とまどいを覚えたことを思い出します。

当時は、学生も2学年だけ、教職員もまだまだ少なかったのですが、毎年新しい学生、教員、職員の方々を迎え、それから約40年、たくさんの方との出合いがあり、育てていただきました。

これまでの徳山高専での職歴の中で、半分以上の年数は、総務・人事系を担当しました。印象深かったのは、人事係長として迎えた法人化です。適用する法律等が異なるため、それまで経験したことのない新しい業務ばかりで、毎日夜中まで移行のための準備を続けたもの

です。その中で、私を助けてくれたのは、中国地区高専の7人の人事係長です。お互いの気づかない点をカバーしあい、助け合って乗り切ったことは、その後の業務の中で、この上ない自信となりました。その時の仲間とは、今も「戦友会」と称し、時には一緒に温泉旅行を楽しみ、思い出を語っています。

課長昇任にあたっては、それまで高専機構では前例のなかった、同じ高専での昇任という我儘も叶えていただきました。先生、上司や同僚の方々の応援と支えのおかげです。学生課長として初めて学生業務を担当し、高専職員として学生と一緒に過ごす楽しさも感じる事ができました。

還暦を迎え、歳をリセット。0歳として、また新たな人生のスタートを迎えたいと思います。これからもたくさんの方々との出合いを求めています。

徳山高専のますますの発展をお祈りしています。



図書館だより

今年の図書館時間外開館アシスタントの紹介

平成27年の時間外開館アシスタントの皆さんです。



| | | | | | |
|-----------|--------|-----------|--------|-----------|-------|
| 土木建築工学科5年 | 八塚 亮平 | 機械電気工学科5年 | 澤野 晃輔 | 情報電子工学科5年 | 内田 凌 |
| 情報電子工学科5年 | 伊ヶ崎 椋太 | 機械電気工学科5年 | 中村 武司 | 土木建築工学科5年 | 加藤 志歩 |
| 情報電子工学科5年 | 藤本 洋平 | 機械電気工学科5年 | 岡 昌志 | 情報電子工学科5年 | 大泉 葵 |
| 機械電気工学科5年 | 福原 隼一 | 機械電気工学科5年 | 延本 駿輔 | 情報電子工学科5年 | 谷本 日向 |
| 土木建築工学科5年 | 原田 真緒 | 情報電子工学科5年 | 市之瀬 樹生 | 情報電子工学科5年 | 安田 彩香 |
| 土木建築工学科5年 | 山本 志保 | 機械電気工学科5年 | 伊藤 瞭汰 | 土木建築工学科5年 | 加納志織里 |
| 土木建築工学科5年 | 志賀 菜帆 | | | 情報電子工学科5年 | 神代磨奈美 |

編集後記

徳山高専だよりの編集にはじめて携わり、感じたことが2つある。

ひとつは、実に多くのかたが、この学校に関わり、日々の営みが積み重ねられているかということ。

そして、もう一つは、徳山高専の1年は、じつに様々な活動に彩られているということ。

関係のみなさまにここよりお礼申し上げます。

さて、ここに41年目の徳山高専だよりを上梓します。保護者の方々をはじめ、この学校の運営に関わるみなさま、ご支援いただいているみなさまに、1年の報告をさせていただきます。今年はコンパクトな誌面をめざしたので、みなさまにコンパクトに、ダイレクトに伝えられれば幸いです。

徳山工業高等専門学校

National Institute of Technology, Tokuyama College

徳山高専だより No.69

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200(代表)
FAX (0834) 28-7605(代表)
印刷 株式会社 あかつき
発行日 2016年(平成28年)3月4日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

National Institute of Technology, Tokuyama College



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構 (JABEE)からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar. 2013

本校は、平成24年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。